

ミーシャ三ヶ森クリニック

自宅での簡易検査

寝る前に腕に簡単な検査装置を
装着して寝ていただきます。



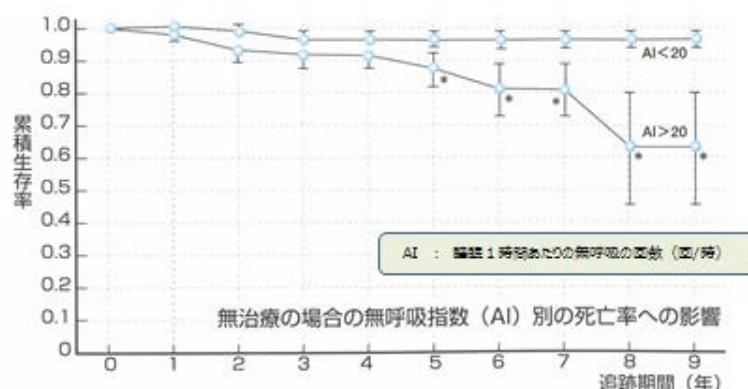
説明資料

人は人生の約1/3ほどの時間は睡眠にあてています。夜眠れないという症状は、誰でも経験のあることです。そのなかで、睡眠中の呼吸障害のため慢性的に睡眠不足の状態にある人は日本でも人口の1%（約100万人）近くいることが推定されます。重篤な人では、日常の活動低下にとどまらず、心臓病、脳血管障害などの合併症を起こすことが知られています。現在では重篤な人にも治療法が確立されており、ますので是非活用頂きたいと考えています。

10秒以上息が止まるなどを無呼吸と言います。無呼吸が一晩に30回以上、あるいは1時間あたり5回以上あり、いろいろな症状を起こす病気を睡眠時無呼吸症候群といいます。この病気の人は寝ているときに何回も息が止まるので酸素が不足し、このため心臓に負担がかかり高血圧、肺高血圧、不整脈、体のむくみをおこします。正常の人にくらべて狭心症、心筋梗塞、脳梗塞などの病気が多く、寿命も短いことがわかつてきました。



睡眠時無呼吸症候群は寿命を短くする



こんな方は要注意。睡眠時無呼症候群の可能性があります。

- いびきがひどい
- 息が止まっていると家族から指摘がある
- ぐっすり寝た気がしない。昼間ねむい。
- 太っている

症状がなくてもこんな方は一度検査を受けておきましょう。

- 運転業務の方
- 機械の操作をする方

当クリニックでは睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査を実施しています。検査方法は簡単です。就眠時にパルスオキシメーターという機械を指に装着し、動脈血酸素飽和度 (SpO_2) を測定します。この検査で異常をみとめた場合には専門医療機関にご紹介し、精密検査としてポリソムノグラフィー検査をおこなっていただきます

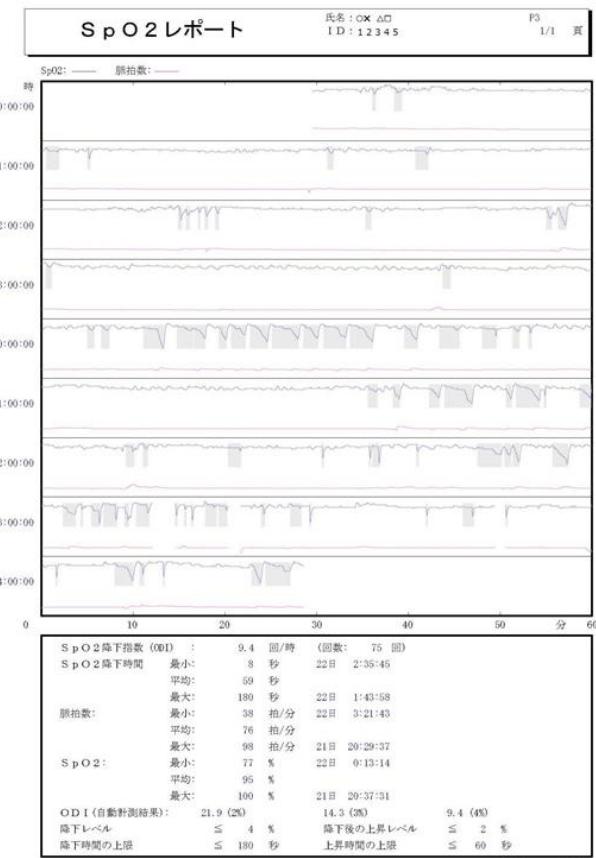
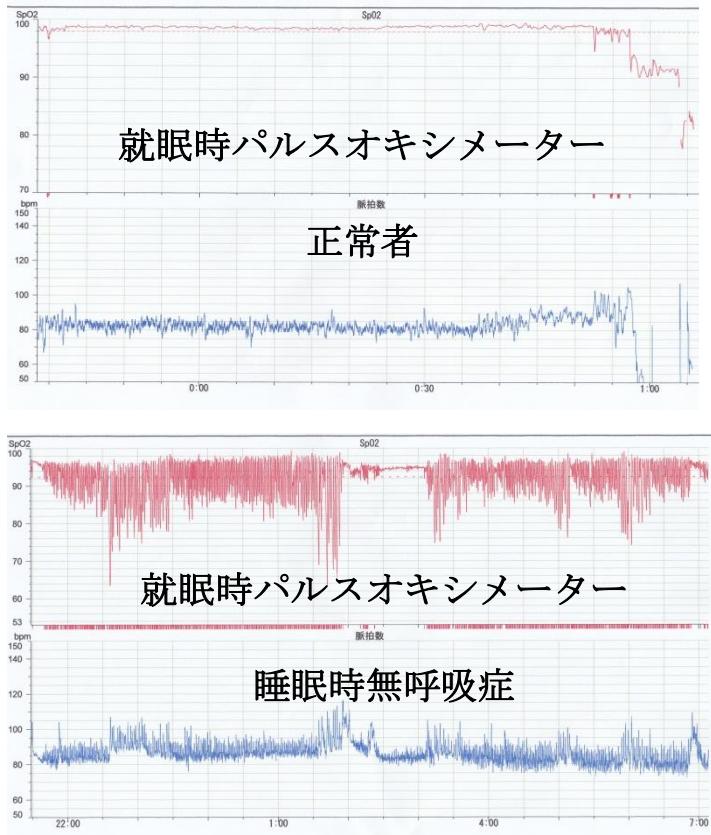
就眠時パルスオキシメーター



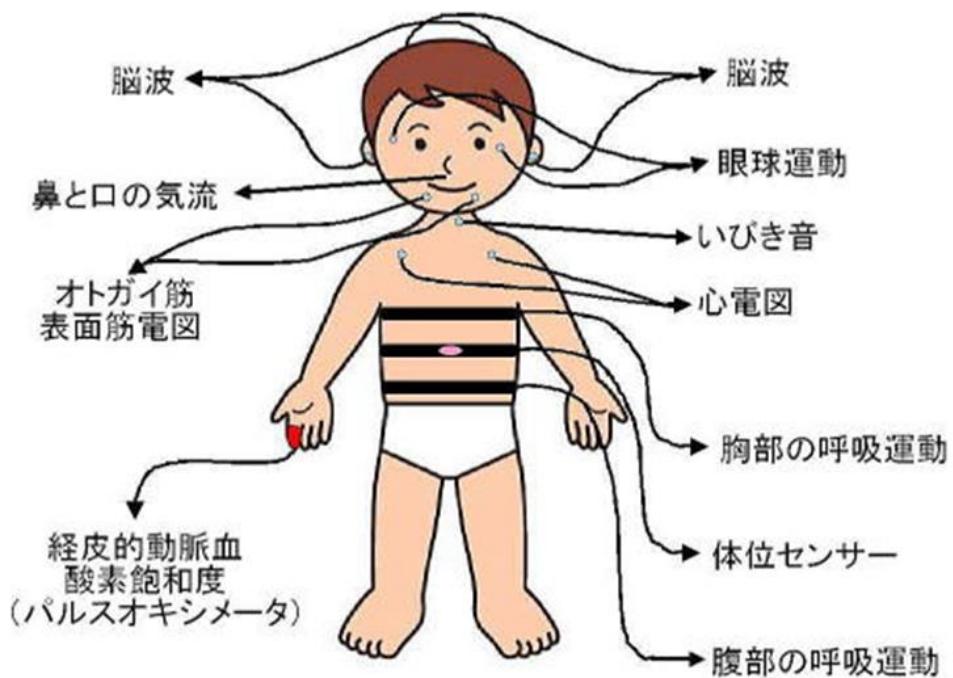
就眠時に動脈血酸素飽和度と脈拍数を測定します
睡眠時無呼吸症候群の方は就眠中に動脈血酸素飽和度が低下します。



医師が判定し異常であれば精密検査(ポリソムノグラフィー)を施行



結果判定に関しては 1 時間当たり SpO2 が 3%以上低下した平均回数が 15 回以上を重症睡眠時無呼吸症と判断されます。ポリソムノグラフィーの精密検査が必要となります。



ポリソムノグラフィー

精密検査のポリソムノグラフィーでは SpO_2 測定に加えて脳波や心電図や各種のセンサーを装着されより精密な検査が行われます。。